

原 著

宮城縣下學校職員ニ於ケル喀痰ノ 結核菌培養ニ就テ 第二報

(昭和16年8月16日受領)

東北帝國大學(醫學部 熊谷内科教室)

武田 安雄 加藤 學 石川 義哲
青木 茂 三神 秋子 安本 利俊

東北帝國大學(醫學部 「レントゲン」科教室)

古賀 良彦 高橋 信次

一、緒 論

既ニ熊谷教授⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾ハ肺結核ノ治療指針ニ於テ、結核菌ノ消長コソ最モ重要ナルヲ再三強調セラレタ。

近時集團檢診ニ關スル研究益々盛ントナリ、熊谷内科教室ニ於テモ宮城縣⁽⁵⁾⁽⁶⁾⁽⁷⁾、石川縣⁽⁸⁾、岩手縣下⁽⁹⁾⁽¹⁰⁾ノ農村ニ關シ或ハ中等學校生徒⁽¹¹⁾⁽¹²⁾⁽¹³⁾、宮城縣下學校職員⁽¹⁴⁾等ニ既ニ實施シ且

ツ其ノ成績ヲ發表シテキル。

宮城縣下學校職員 7200名ノ集團檢診ニ於テ、先ズ石川、加藤⁽¹⁴⁾等ハ2800名檢査シ報告シタ。余等ハ續イテ殘餘ノ職員 4400名ノ内 2500名ニ付キ檢診セルヲ以テ、宮城縣下學校職員結核檢診第二報トシテ其ノ成績ヲ報告スル、

二、檢査資料及ビ檢査方法

今回ノ檢診ニ參加セルハ第1報ニ於テ未ダ檢診セザル者即チ仙臺市以南ノ仙南地方全部、仙臺市以北ノ石卷市古川町及ビ之レガ隣接地域ノ小學校職員、中等學校職員約 2500名デアル。學校職員トハ第1報⁽¹⁵⁾ニモ述ベシ如ク教員ノミナラズ書記使丁等ヲ包含シ、男子 1435名、女子 1006名デ、年齢ハ 15歳ヨリ 75歳ニ及ブ。昭和 15年6月中旬ヨリ7月上旬ニワタリ、白石町刈田公立病院、石卷市日赤支部病院古川町

宮城縣立健康相談所ノ3ヶ所ニ各職員ノ集合ヲ求メ、1日 300—500名ノ割合ヲ以ツテ檢診ヲ實施シタ。

檢査方法ハ第1報ト同様ニ次ノ如キ檢査ヲ行ツタ。

- 1) ツベルクリン皮内反應
- 2) 赤血球沈降速度測定
- 3) 全員ノ喀痰培養
- 4) 全員ノ胸部「レントゲン」寫眞檢査 (間接檢)

第 1 表 「ツベルクリン」皮内反應陽性度及比陽性率

年 齡	檢 査 人 員			「ツベルクリン」皮内反											
	男	女	計	0-5 mm		6-10 mm				11-15 mm					
				男	女	男	女	男	女	男	女				
				實數	%	實數	%	實數	%	實數	%	實數	%		
11-15	6	2	8	3	50.0	1	50.0	1	16.7	0		0		0	
16-20	48	208	256	19	39.6	109	52.4	6	12.5	35	16.8	1	2.1	3	1.4
21-25	204	314	518	38	18.6	124	39.5	10	4.9	49	15.6	10	4.9	12	3.8
26-30	273	189	462	44	16.1	66	34.9	23	8.4	22	11.6	14	5.1	10	5.3
31-35	281	167	448	22	7.8	31	18.6	11	3.9	14	8.4	18	6.4	17	10.2
36-40	224	58	282	20	8.9	10	17.2	5	2.2	10	17.2	17	7.6	4	6.9
41-45	161	39	200	13	8.1	7	17.9	5	3.1	2	5.1	12	7.5	3	7.7
46-50	126	13	139	5	3.9	0		4	3.2	2	15.4	16	12.7	1	7.7
51-55	68	11	73	2	3.2	1	9.1	5	8.1	4	36.4	3	4.8	1	9.1
56-60	38	5	43	3	7.9	1	20.0	2	5.3	0		0		0	
61-65	8	0	8	1	12.5	0		1	12.5	0		2	25.0	0	
66-70	3	0	3	0		0		1	33.3	0		1	33.3	0	
71-75	1	0	1	0		0		1	100.0	0		0		0	
計	1135	1006	2441	170	11.8	350	34.8	75	5.2	138	13.7	94	6.6	51	5.1

應 陽 性 度				「ツベルクリン」皮内反應陽性率									
16-25 mm		26 mm-											
男	女	男	女	男		女		計					
實數	%	實數	%	實數	%	實數	%	實數	%	實數	%	實數	%
1	16.7	1	50.0	1	16.7	0		2	33.3	1	50.0	3	37.5
13	27.1	31	14.9	9	18.7	30	14.4	23	47.9	64	30.8±3.16	87	34.0±3.0
71	34.8	74	23.6	75	36.8	55	17.5	156	76.5±3.0	141	44.9±2.8	297	57.3±2.2
99	36.3	56	29.6	93	34.1	35	18.5	206	74.1±2.6	101	53.4±3.6	307	66.5±2.2
126	44.8	63	37.7	104	37.0	42	25.1	248	88.3±2.0	122	73.1±3.4	370	82.6±1.7
105	46.8	21	6.2	77	34.4	13	22.4	199	88.8±2.0	38	65.5	237	84.0±2.2
78	48.4	18	46.2	53	32.9	9	23.1	143	88.8±2.4	30	76.9	173	86.5±2.4
63	50.0	7	53.8	38	30.2	3	23.1	117	92.9±2.2	11	84.6	128	92.1±2.2
30	48.4	4	36.4	22	35.5	1	9.1	55	88.7	6	54.5	61	83.6
21	55.3	4	80.0	12	31.6	0		33	86.8	4	80.0	37	86.0
3	37.5	0		1	12.5	0		6	75.0	0		6	75.0
1	33.3	0		0		0		2	66.7	0		2	66.7
0		0		0		0		0		0		0	
611	42.6	279	27.7	485	33.8	188	18.7	1190	82.9±0.99	518	51.5±1.4	1708	69.9±0.9

± 百分率ノ平均誤差

影法)

「ツベルクリン」皮内反應ハ傳研製舊「ツベルクリン」原液ノ0.5%石炭酸生理的食鹽水1000倍

液0.1ccヲ上膊内側ノ皮内ニ注射シ、24時間後ノ發赤11mm以上ヲ陽性トシタ。赤血球沈降速度測定ハWestergren氏法ニ從ヒ、其ノ1時間

値ヲ採リ、測定ハ室温ニ於テ行ツタ。
 胸部「レントゲン」寫真ハ間接撮影法ヲ以テ 6×6 cm 版ニ縮影シタ。
 以上ノ検査順序ハ第1日目ニ先ヅ「レントゲン」間接撮影ヲ行ヒ。次イデ赤沈速度測定ノ採血及ビ「ツベルクリン」皮内反應ヲ施行シ最後ニ滅菌「シャーレ」或ハ滅菌綿栓遠心管ヲ交附シ、翌朝喀出セル喀痰ヲ入レテ翌日持參スル事ヲ命ジタ。赤沈測定及ビ「レントゲン」間接撮影「フィルム」ノ現像ハ同日ニ施行シ置ク。
 第2日目ハ先ヅ「ツベルクリン」皮内反應ヲ測定シ、前日交附セル喀痰容器ヲ受け取り、喀痰缺除セル者ハ含嗽ニヨリ咽頭粘液ヲ採取シ培養ニ附シタ。喀痰ノ腐敗及ビ雜菌ノ増殖ヲ防グ目的

ヲ以ツテ、0.5% 硫酸水ヲ喀痰量ノ2—3倍量加ヘテ直チニ教室研究室ヘ汽車便ヲ以ツテ發送シ早急ニ培養ニ供シタ。次ニ前日現像セル間接撮影ル「フィルム」像ニ病變ヲ認メシ者ハ直チニ4ツ切大型「フィルム」ニテ撮影ヲ行ヒ検査終了トシタ。

以上ハ再検査ノ必要ノ際、仙臺市ニ集合ヲ要スル關係ヨリ學校當局及ビ經濟的不利ヲ避ケル所所以ト思惟セシ爲メデアル。喀痰ハ塗抹標本ヲ作ラズ總テ培養ニ供シタ。其ノ方法ハ第1報ニテ示セル岡、片倉氏磷、酸、鹽、味ノ素、雞卵、培地ニ各々2—3本宛塗擦シ、37°C 恒温室ニ約1ヶ月放置後成績ヲ検査シタ。

三、検査成績

1) 「ツベルクリン」皮内反應成績

被檢全員 2441 名ノ「ツベルクリン」皮内反應陽性度及ビ陽性率ハ、男女別、年齢別ニ分類シテ第1表ニ見ル如キ成績ヲ得タ。陽性率ハ兩性トモ年齢ノ増加ニ從ツテ高率トナリ、51歳ヨリ以

上ハ次第ニ減少ノ傾向ヲ示ス。各年齢期ヲ通ジテ男子ハ女子ヨリ少シク高率ヲ示シテキル。全體トシテ都會地ノ陽性率ニ略々近キ値ヲ示シテキルト考ヘラル。

2) 赤沈速度測定成績

「レントゲン」像所見陽性者及ビ培養陽性者計 89 例ヲ除キタル即チ結核性病變ヲ認メヌ者ノ

赤沈速度測定成績ハ第2表及ビ第3表ニ示ス通りデアル。第2表ニ見ル如ク男女性別ニヨル赤

第2表 赤血球沈降速度成績(ウエスターグレン氏法—時間値)

年齢	施行人員			赤沈速度平均値		
	男	女	計	男	女	男女計平均値
14—15	4	2	6	10.9±3.6	11.5±9.0	11.0±6.0
16—18	7	48	55	4.3±2.4	14.2±7.3	13.0±7.4
19—20	41	156	197	7.1±7.2	15.2±10.5	13.5±10.2
21—22	87	165	252	6.2±5.1	15.3±11.2	12.1±10.4
23—25	106	149	255	6.6±5.9	15.0±9.9	11.4±9.3
26—30	259	183	442	7.5±5.7	17.4±13.2	11.5±10.4
31—40	493	211	704	7.8±7.2	18.8±12.8	11.2±10.3
41—50	262	54	316	9.4±7.7	18.9±13.3	11.2±9.6
51—60	98	17	115	11.5±10.3	22.3±14.4	13.1±11.7
61—	12		12	22.6±18.4		22.6±18.4
計	1369	985	2354			

± 標準偏差

第 3 表 結核性病變ヲ認メヌ者ニシテ生理的範圍ヨリ大ナル赤沈値ヲ示ス者

年 齡	男				女				合 計		
	生理的 最大値 mm	検査 人員	最大値 ヲ超 ヘル モノ	%	生理的 最大値 mm	検査 人員	最大値 ヲ超 ヘル モノ	%	検査 人員	最大値 ヲ超 ヘル モノ	%
14—15	11.2	4	2	50.0	15.8	2	1	50.0	6	3	50.0
16—18	8.9	7	0		16.8	48	13	27.08	55	13	23.63
19—20	8.1	41	12	29.26	14.7	156	63	40.38	197	75	38.07
21—22	7.3	87	18	20.68	15.4	165	55	33.33	252	73	28.96
23—25	6.6	106	34	32.07	17.2	149	41	27.51	255	75	29.41
26—30	7.8	259	97	37.45	22.3	183	38	20.76	442	135	30.54
31—40	11.4	493	84	17.03	24.2	211	40	18.95	704	124	17.61
41—50	13.6	262	40	15.26	24.7	54	12	22.22	316	52	16.45
51—60	17.7	98	8	8.16	35.3	17	3	17.64	115	11	9.56
61—	27	12	3	25.0	40.6	0	0		12	3	25.0
計		1369	298	21.76		985	266	27.00	2354	564	23.95

沈値ノ差異著明ニシテ且ツ兩性トモ年齢の動搖ヲ少シク認メラレ、第 3 表ハ秋月及ビ星⁽¹⁵⁾ノ作製シタ健康人ノ赤沈速度成績ニ依リ、結核性病變ヲ認メヌ者ニシテ生理的範圍ヨリ大ナル赤沈値ヲ示スモノニ付キ検索セル成績ニシテ結核性病變ヲ認メナイ 2354 名中 564 名即チ 23.95

%ガ最大値ヲ超過シタ。之レ非結核者ニ於テモ相當數ノ生理的範圍ヲ超ヘルモノアルヲ知ル。カカル事實ハ岡田、堀田⁽⁷⁾等モ述ベタル如ク、集團の結核發見検査ニ於テ赤沈速度ニヨル結核發見ハ可成ノ注意ヲ要スルモノト考ヘラル。

3) 胸部「レントゲン」寫眞検査(間接撮影法)

竝ニ喀痰中結核菌培養成績

胸部「レントゲン」寫眞検査ハ古賀助教授ノ指導ノ下ニ間接撮影法ヲ以ツテ 6×6 cm ニ縮影ヲナシ、縮影像ニ於テ病變ヲ認メシハ 4 ツ切り大型フィルム撮影ヲ行ツタ。間接撮影法ニヨリ異狀陰影ヲ認メシハ 76 例デ全員ノ 3.1% ニ相當スル。喀痰中結核菌培養陽性ハ 36 例デ、之ノ中 13 例ハ間接撮影像ニ於テ病變ヲ看取出來ナカツタ。

間接撮影法ニテ陰影ヲ認メシ 76 例中結核菌陽性者ハ 23 例デ、他ノ 53 例ハ陰性ニ終ツタ。斯ル事實ハ喀痰中結核菌ノ變動ヲ考慮シテモ了解ニ難ク、或ハ夏季ニ於ケル喀痰ノ腐敗セルモノカ又ハ意識的ニ眞ノ喀痰喀出ヲ爲サザルモノト考ヘ、レ線縮像ニ於テ理學的變化アルモノニシテ結核菌陽性者ヲ除キシ總テノモノヲ再度喀痰、胃液ノ再培養ヲ行ツタ。其ノ結果嚮ニ間接

第 4 表 培養法ト間接撮影法所見トノ比較

間 接 撮 影 法	陰影ヲ認ムルモノ.....76	$\left\{ \begin{array}{l} 35 \cdots \cdots \text{陰性} \\ 41 \cdots \cdots \end{array} \right\}$	培 養 法
	陰影ヲ認メザルモノ.....13		
	計	89 例	

像所見アリテ培養陰性ナリシ 53 例中 18 例ノ菌陽性者ヲ發見シ得タ。

以上ノ成績ヨリ 第 4 表ニ示ス通りノ結果ヲ得タ。即チ全員 2441 例ニ於テ間接撮影法ニヨル

陰影ヲ認メタルハ76例デ。全員ノ3.1%、結核菌陽性者ハ54例デ2.2%ニ相當スル。「レントゲン」間接像所見陽性ノ76例、間接像所見陰性デ喀痰中結核菌陽性ノ13例、計89例ハ全員ノ3.2%ニアタル。是等ノ大型フィルム像所見

ト少シク吟味シテ見タ。「レントゲン」像ニヨル病型別ト年齢、及ビ菌數ト病型別トノ關係ハ第5、第6表ニミル通りデアル。先ヅ「レントゲン」像ヨリ病型別ニ分類スルニ、肺結核14例、浸潤性早期型11例、肺門淋巴腺炎4例、肺尖結

第5表 病型別ト年齢

年齢	結核菌陽性						殆 ソ ト 正 常	結核菌陰性				合 計	全 員	百 分 率
	廣汎 ナ ル 滲 出 性 陰 影 (肺結核)	中 等 大 限 局 性 滲 出 性 陰 影 (浸潤期)	大 限 局 性 滲 出 性 陰 影 (性)	局 限 性 滲 出 性 陰 影 (肺門淋巴)	肺 門 像 大 増 大 (肺門淋巴)	肺 尖 部 限 局 性 陰 影 (肺尖結核)		石 灰 化 像	廣 汎 ナ ル 硬 化 性 陰 影 (治癒セル肺結核)	限 局 性 硬 化 性 陰 影	石 灰 化 像			
15-25	3	1	3	2	3		2	1	1	1	17	782	2.17±0.5	
26-30	3	2		1	7°		1	3	3		20	462	4.32±0.9	
31-35	2		1	1*	7	1			3	2	17	448	3.79±0.9	
36-40	3				2	1		2	1	1	11	282	3.90±1.1	
41-	3	2	2		1	2	1	4	5	4	24	467	5.13±1.01	
計	14	5	6	4	20	4	4	2	9	13	8	2441	3.64±0.37	

計 * 註菌陰性
° 2例菌陰性

第6表 病型別ト菌數

培養	結核菌陽性						殆 ソ ト 正 常	結核菌陰性				總 計
	廣汎 ナ ル 滲 出 性 陰 影 (肺結核)	中 等 大 限 局 性 滲 出 性 陰 影 (浸潤期)	大 限 局 性 滲 出 性 陰 影 (性)	局 限 性 滲 出 性 陰 影 (肺門淋巴)	肺 門 像 大 増 大 (肺門淋巴)	肺 尖 部 限 局 性 陰 影 (肺尖結核)		石 灰 化 像	廣 汎 ナ ル 硬 化 性 陰 影 (治癒セル肺結核)	限 局 性 硬 化 性 陰 影	石 灰 化 像	
卅	8	3	2		3							16
廿	1		1		3							5
十	5	2	3		3	4	4					33
一					1	2		2	9	13	8	35
計	14	5	6	4	20	4	4	2	9	13	8	89

核20例デア。石灰化像ノミ散在スルレ線像所見ノ4例ニ於テ結核菌陽性デ、又喀痰中結核菌培養陽性ナルモレ線像所見上殆ソト正常ト認ムベキモノハ4例デア。次ニ「レントゲン」像ニ陰影アルモ、陰影ハ總テ硬化性或ハ石灰化像ニシテ尚ホ喀痰又ハ胃液ノ結核菌培養陰性、赤沈値正常ニシテ治癒セル肺結核ト見做シ得ルモノ32例デア。之ノ治癒セル肺結核ト見做シ得ル32例ヲ詳細ニ述ブレバ、廣汎ナル硬化性陰影ヲ有スルモノ2例、限局性硬化性陰影ノモノ9

例石灰化像ノミ散在スルモノ13例、肋膜癆痕8例デア。

病型別ト年齢トノ間ニハ顯著ナル關係ハ認め難イ。

菌數ノ分類ハ第1報ノ如ク培養ニヨル菌聚落數ノ多寡ニ從ヒ聚落數100個以上ヲ(卅)、30個以上ヲ(廿)、30個以下ヲ(十)トシタ。病型ト菌數トノ關係ニ於テ肺尖結核ニ多量ノ菌排出アルハ注目スベキ事デアリ、肺尖結核ヨリ肺結核ヘノ進展モ可ナリ多ク考ヘラレル。

間接レ線像所見ナクシテ培養陽性ナル例ノ大型フィルム所見ニ依ル分類ハ第 7 表ニ示ス通りデ

第 7 表 間接像所見ナクシテ培養陽性ナル例ノ大型像所見

「レントゲン」線像所見(大型)	例 數
中等大滲出性増殖性陰影(浸潤性早期型) (間接像鮮明ヲ缺キタルモノ)	1
肺尖部ニ限局セル陰影(肺尖結核)	5
肺門像増大(肺門淋巴腺炎)	3
殆ノド正常	4
計	13

アル。大型フィルム像所見ヨリ分類スレバ浸潤性早期型 1 例、肺尖結核 5 例、肺門淋巴腺炎 3 例、殆ノド正常ト見ラルルモノ 4 例計 13 例デアアル。間接縮像ニ於テ鮮明ヲ缺キシ 1 例ヲ除キ肺尖結核 5 例ニ於テ間接像ヨリハ病變ヲ發見シ得ナカッタ事ハ注意スベキ問題デ、今後モ間接

縮像ニ於テ肺尖部病變ノ檢出ニ充分ナル注意ヲ拂フ必要ヲ痛感スル。

次ニ肺尖部ニ陰影ヲ認メ、他ノ肺野ニ陰影ナキ一見輕微ナルヲ思ハシム肺尖結核モ、喀痰培養ノ成績ヨリ重大性が認メラレル、即チ第 8 表ニ示ス如ク 20 例ノ中 18 例ハ菌陽性ニシテ、大型

第 8 表 肺尖結核ニ於ケル間接撮影法ト培養法トノ比較

間 接 法	陰影ヲ認ムルモノ……………15	$\left\{ \begin{array}{l} 2 \cdots \cdots \text{陰性} \\ 13 \cdots \cdots \end{array} \right.$	培 養 法
	陰影ヲ認メザルモノ……………5		
	計 20		

フィルム像ニ於テ明カナル病變ヲ肺尖部ニ認ム。又第 6 表ヨリ多量ノ菌排出例モ少ナカラザルヲ知ル。斯ル事實ハ肺尖部輕微陰影モ菌排出ヲ考慮スレバ、肺結核ヘ遂展ノ可能性モ知り又他ヘノ感染危險ノ大ナルヲ推察シ得ル。間接縮像ニ

所見アリテ培養陰性ナリシ例ヲ大型レ線像ヨリ分類スレバ第 9 表ノ如シ。表ニ示ス如ク 35 例中石灰化竈ノミ散在シ他ニ病變ヲ認メヌモノ 13 例デ最モ多ク、次イデ限局性硬化性陰影ノモノ 19 例肋膜癆痕 8 例、廣汎ナル硬化性陰性ノモノ

第 9 表 間接像所見アリテ培養陰性ナリシ例ノ大型像所見ニヨル分類

レ線像所見	例 數
廣汎ナル硬化性陰影	2
限局性硬化性陰影	9
肺尖部ニ限局スル陰影	2
肺門像増大	1
石灰化像	13
肋膜癆痕	8
計	35

2 例、肺尖部ニ限局セル陰影 2 例及ヒ肺門像増大 1 例デアアル。以上ノ各例ハ「ツベルクリン」皮

内反應、赤沈速度測定値ヲ參照シ、再検査ニ於テ喀痰及ヒ胃液培養陰性デ菌排出ナク且ツレ線

像陰影ハ硬化性ナル事ヨリ 35 例中 32 例ヲ臨牀上治癒セル肺結核ト診定シ、他ノ 3 例ハ赤沈値ガ正常値ヨリハルカニ高キ事實ヨリ未ダ完全治癒ニ到ラザルモノトシタ。斯ク病勢ノ判定ニハ菌ノ證明ガ最モ重大ナルヲ

強調サルベク、夙ニ熊谷教授ノ注意セラレシ所以デアル。

石灰化竈ノミアリテ培養陽性ナルハ 4 例、レ線像所見殆ンド正常デ培養陽性ナルハ 4 例ニシテ第 10 表ニ表示セル通りデアル。故ニレ線像ニ

第 10 表 石灰化竈ノミアリテ培養陽性ナル例

氏名	年齢	赤沈速度	「ツベルクリン」皮内反應	培養	「レントゲン」像所見
山○恒○	34	15	30×30/25×25/-	(+)	兩側上肺野ニ數個ノ小石灰化竈
橘○良○	43	13	25×25/25×25/-	(+)	兩側肺尖部ニ小石灰化竈
早○冬○	44	6	20×20/20×20/-	(+)	兩側上肺野ニ各々數個ノ小石灰化竈
鎌○吉○郎	38	2	25×25/25×25/-	(+)	兩側肺上野ニ點狀ノ小石灰化竈數個

レ線像殆ンド正常ニシテ培養陽性ナル例

氏名	年齢	赤沈速度	「ツベルクリン」皮内反應	培養	「レントゲン」像所見
谷○秀○	25	2	25×25/25×25/-	(+)	殆ンド正常
八○字○朝○	25	7	34×34/35×33/-	(+)	殆ンド正常
佐○章○	42	35	30×30/30×30/-	(+)	殆ンド正常
西○重○	28	5	25×25/25×25/-	(+)	殆ンド正常

石灰化竈ノミアルヲ見テ、直ニ之レヲ危険ナキモノトハ見做シ得ズ、他方「レントゲン」像正常ナル多數ノ中ニ極ク少數デハアルガ結核菌ヲ排出シテ居ルモノモアリ、レ線ニテ認識シ得ルニモ限界ノアル事ガワカル、レ線像ニ石灰化竈ノミアリテ他ニ病變ナク然モ菌陽性デ、他ノ赤沈値モ正常値ヲ示スハ臨牀上最モ重要ニシテ、病竈ガ石灰化シテモ尚ホ菌ノ檢出ヲ實施スベク、菌排出ノアル期間ハ再燃ノ恐レアルモノトシテ注意セシム可キデアル。

レ線所見ハ殆ンド正常デ、「ツベルクリン」皮内反應陽性ノモノヨリ菌排出アルハ、教室員岡¹⁶⁾ガ結核初感染症ノ長期觀察ヨリ實證セシ所ニシテ、余等モ亦斯ル結核初感染症ト認ム可キモノカ、或ハ新シキ又ハ古イ肝臟ノ結核病竈ノ吸收シレ線像ニテ認メ難イ程小ナルモノニナツタト考ヘ得ラレルモノ 4 例ヲ發見シタ。斯クノ如ク結核菌ノ檢出ハ病勢ノ進展、豫後、早期發見、及ビ治療指針トシテ益スル所大ナルヲ痛感スル。

四、疾病ヲ發見サレシ者ノ處置

以上ノ検査成績ヨリ、要注意者及ビ要治療者ト認ム可キモノ 44 名ニシテ、要治療者ト認メシ者ニハ短期或ハ長期ノ休養治療ヲ命ジシタ。一部ノモノハ宮城縣立教員保養所ニ入所ナスメ現在マデニ保養所ニ入所加療中ノモノ 24 名デ、尚ホ保養所外來治療指導ノモノ 2 例デアル。理學の所見輕微或ハ顯著ナルモ培養陰性ナルハ

要注意者トシテ現職ニ止メタ。現在教員保養所ニテ加療セシモノノ成績ハ第 11 表ニ見ル通りデアル、人工氣胸術ヲ施行中ノモノ 6 名、横隔膜神經捻除術施行ハ 1 名、總テ安靜脂肪食ヲ攝ラシメタ。表ノ成績ハ昭和 15 年 9 月上旬入所ヨリ昭和 16 年 3 月上旬マデノ約半ケ年間ノモノデ、培養陰性トナリ再勤務ヲ許可サレタ者 7

第 11 表 加療休養中ノ者ノ經過

經 過		
I	陰影縮小吸收シ一般狀態良好トナリツツアルモノ	5
II	培養陰性トナリ再勤務ヲ許サレタルモノ	7
III	菌數減少(培養上)一般狀態改善セルモノ	8
IV	大ナル變化ナキモノ	4
V	惡化セルモノ	0
計		24

例、菌數減少シ培養上未ダ陽性デ一般狀態ノ改善セルモノ 8 例、陰影縮小吸收シ一般容態良好

ナルモノ 5 例、大ナル變化ナキハ 4 例デアル。

五、集團的培養上ノ注意

遠隔地域ニ於テ短日ニ集團檢診及ビ集團的喀痰蒐集ヲ實施スルニ當リ種々ノ困難ニ遭遇スル。

先ヅ第 1 ハ既ニ第 1 報ニテ注意セシ如ク疾患ノ發見トソレニ伴フ地位上ノ危險ヲ懼ルルガ爲メ故意ニ喀痰ノ喀出ヲ避ケル者アル事ニシテ、特ニ結核性疾患ノ既往症アルモノ、或ハ病感ノアル者ニ見ラル。爲メニ余等ハ喀痰缺如ノ者ハ含嗽ヲ行ハシメテ之レヲ培養ニ供シタ。以上ハ第 1 回培養ニ際シ間接像所見アリテ培養陰性ナリシモノ 53 例ニ及ビシモ、再検査ニヨリ之ノ中 18 例ノ菌陽性者ヲ發見シ得タ事實ヨリ推察セル所以ニシテ、夏季ニ於ケル喀痰ノ腐敗及ビ、

喀痰中結核菌ノ動搖ヲ考慮シテモ了解ニ苦シム所デアル。

斯ル事ヨリ喀痰検査ハ何回モ繰リ返シテ行フ事ガ望マシイ。

第 2 ハ遠隔地域ニ於ケル多數ノ喀痰採集ヲ行ヒ、之レヲ研究室ニ早急ニ運搬、培養ヲ實施スル事ノ困難ニシテ、夏季ノ際ハ高溫ノタメ喀痰ノ腐敗ヲ來シ、斯ル爲メ少數ノ結核菌ハ死滅シ培養上ニテモ菌證明不能ニ陥ル危險アルヲ注意シタイ。

以上ヲ考ヘ余等ハ喀痰中ニ 1% 硫酸水ヲ喀痰ノ約 2 倍量加ヘタ。之ノ問題ニ關シテハ教員青木⁽¹⁷⁾ノ實驗ガアル。

六、總 括

余等ハ小學校、中等學校職員 2441 名ノ全員ニ、胸部「レントゲン」間接撮影、赤沈速度測定、「ツベルクリン」皮内反應、喀痰中結核菌培養ヲ施行シタ。

以上ノ検査方法ハ結核ヲ主目標トスル個々ノ檢診ニ於テ缺クベカラザルハ論ヲ俟タズ、集團檢診ニ於テモサシタル苦難ナシニ實行シ得ル最モ確實有效ナル検査法ナルヲ再認シ得タ。男子 1435 名、女子 1006 名、計 2441 名ノ検査成績ハ次ノ如クデアル。

1) 「ツベルクリン」皮内反應ニ於テ陽性率ハ 69.9±0.9% デ都市ノ陽性率ニ近キ値ヲ示シ、

又年齡別ヲ通ジテ男子ハ女子ヨリ少シク高率ナルヲ知ル。

2) 全員ヨリ喀痰培養陽性者ハ 54 例デ之ハ全員ノ 2.2% ニ相當スル。理學的所見陽性及ビ結核菌陽性者ハ計 89 例デ全員ノ 3.2% ヲ檢出シ得タ事トナル。之レハ第 1 報ノ成績ト略々同様デアル。

3) 「レントゲン」像ニ著明ノ變化アルモ培養陰性ニ終リタルハ 35 例デ、是等ノレ線像ハ硬化性或ハ石灰化竈ノ散在セルモノ及ビ肋膜癆痕ニシテ、菌陰性ナル點ヨリ治癒セル肺結核ト診定シ得タモノ 32 例、他ノ 3 例ハ赤沈値ノ速進ニ

ヨリ未ダ完全治癒ニ到ラザルモノトシタ。

4) レ線縮像ニ病變ヲ認メズ、培養法ニ於テ初メテ結核菌ヲ檢出シ得タ 13 例、大型レ線像所見ヨリ 9 例ノ病變ヲ確認シ得タ。

5) 四ツ切大型レ線像所見陰性デ然モ菌陽性ナルモノ 4 例ヲ發見シタ。石灰化竈ノミ散在セル

例ニ於テ菌陽性ナルモノ 4 例ヲ得タ。

斯ル事實ヨリレ線像所見及ヒ喀痰中菌排出ノ有無ヲ顧慮シテ病勢ヲ判斷スベク、菌排出ハ病變ノ再燃セルヲ示ス指標ナリト思考セラル。

此ノ研究ニ要セシ費用ハ文部省科學研究費ニ依レリ。茲ニ謝意ヲ表ス。 熊谷岱藏。

文 獻

1) 熊谷, 日新醫學. 昭 9, 23, 1. 2) 熊谷, 治療醫學雜誌. 昭 14, 9, 757. 3) 熊谷, 日本臨牀結核. 昭 15, 1, 9. 4) 熊谷, 肺結核ノ早期診斷ト其ノ治療指針. 昭 15, 金原書店. 5) 星, 東北醫學雜誌. 昭 14, 25, 125. 6) 楠, 榎原等, 結核. 昭 15, 18, 467. 7) 岡田, 堀田等, 結核. 昭 15, 18, 451. 8) 中村, 金田等, 結核. 昭 15, 18, 407. 9)

中村, 猪股等, 結核. 昭 15, 18, 439. 10) 中村, 大山等, 結核. 昭 15, 18, 423. 11) 岡, 田村, 結核. 昭 13, 16, 585. 12) 岡, 石川, 第 18 回日本結核病學會演說. 13) 岡, 石川, 結核. 昭 15, 18, 376. 14) 石川, 加藤等, 結核. 昭 15, 18, 487. 15) 秋月, 星, 臨牀內科. 昭 13, 4, 1. 16) 岡, 東北醫學雜誌. 昭 14, 25, 142. 17) 青木, 未刊.